

WS 6	水彩画を描く—技法を基本から学ぶ				
	【定員】 25名 【受講料】 2年・1年会員・聴講生ともに 28,310円（静物画モチーフ、人物画モデル代として4,000円を含みます。）				
	『美術』【ワークショップ】 芸術 【時間】 毎回17時00分～19時30分（計10回）				
概要	水彩画の基本的な技法と造形的なものを見方を理解し、自らのみずみずしい感性の発見と創造の楽しさを知ります。				
回	月/日(曜)	会場	学習内容		講師名(敬称略)
1	4/12(水)	川崎市生涯学習プラザ	静物A	講義および制作 静物A (1) 鉛筆による下素描。絵具によるキアロスクーロ。(単色の明暗対比表現)	NHK文化センター講師 佐藤 道子
2	4/19(水)			静物A (2) 固有色の注意深い観察。色調の調和と対比を試みる。	
3	5/10(水)		静物B	静物B (1) 鉛筆による下素描。絵具によるキアロスクーロ。(単色の明暗対比、空間の表現)	
4	5/17(水)			静物B (2) 固有色を観察し、自分らしい調和を試みる。	
5	5/31(水)		人物A	人物A (1) 鉛筆による下素描。人体の比例、動き、量感を捉える。 淡色彩色によるキアロスクーロ。(単色で大まかな明暗を施す)	
6	6/7(水)			人物A (2) 色彩と形態を観察し描き進める。自分が感じたものを簡潔に表現する。	
7	6/14(水)		人物B	裸婦クロッキー。水彩による速描。15枚くらいの水彩紙を用意。	
8	6/28(水)		人物C	人物C (1) 鉛筆による下素描。人体の比例 動き 量感を捉える。 淡色彩色によるキアロスクーロ(単色で大まかな明暗を施す)	
9	7/5(水)			人物C (2) 色彩と筆致を生かし、のびのびした自分らしい表現を探る。	
10	7/12(水)		講評会	これまで描いた作品についての受講生のスピーチと、講師の講評	
連絡事項	*4/12(第1回)から実技を行います。必要な持ち物は、受講決定通知内でご案内いたします。				